

のに對する投げやり、ぞんざい、そまつ、ふしだら、それはたゞ物を大切に、人手を煩はさぬ爲といつた躰けであるばかりでなく、性格そのもの、陶冶になることである。たとへば、落ちつき、稠密、周到といつた風の性格の養成の基本になる。物を整理し得ることは、心を整理し得ることである。

三には、行動を他と共になし得る躰け。これは、大體幼稚園で毎日してゐることで、大抵の子どもは當然その躰けが出来てゐる筈であるが、どうかすると、その出来ない子がある。行動を共にせぬとふことは、これからはいる學級の集團訓練に甚しく妨害になる。みんなが集る時は、自分も急いで集合する。みんながぎちち、としてゐる時は、自分もきちんとしてゐる。みんなが行列を作つてゐる時は、自分もその行列の中へはいる。たとへばかうした類である。ところで、斯うした躰けのねらつてゐるところは、さういふ習慣が行動の上で養はれることであるが、もつとこまかにいへば、他と行動を共にすべき時に、それをしないのであることを平氣でなくする躰けである。所謂變人といふ型は、これが平氣なのである。平氣以上、それが快であつたりするのである。そんな變り性にならないやうに心持ちを躰けて置きたい。

四には、先生の言ふことを、よく、正しく聽くことの躰けである。うはのそら、よこむき、いゝかげん、さうした悪習は、幼稚園のものとしても、教育を受取らせ難いことになるのであるが、國民學校に入つては一段と損なことになる、正しく授業を受けるといふことは、國民學校兒童の必須の要件であるが、それは、幼児からのこの躰けなしには出来ない。そして、この躰けのために

は、一應きちんとした訓練をする必要があらう。自發自由の名を託して、許すべからざることを許すことが幼稚園には往々あるが、さうした氣まぐれでは、學業を受けることは到底出来ない。勉強する習慣といふものがいつも尊重せられるが、先づ大切なのは、よく學ぶ習慣である。

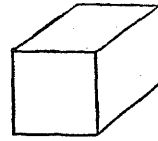
自由遊戯

上遠文子

厳しい寒さにも、すっかりなれて、むしろ忍びよる春の感觸を求める此頃であります。

室内遊戯も上手に遊べる様になりました。室の中の何時も變らぬ一定の御道具に子供達は満足出來ず、自然とそれらを用ひて工夫をして遊ぶ様になります。その一つとして、椅子が汽車になります。電車になります、又女の子では澤山ならべて、おマ、ゴトの御部屋にもなるのです。始め、お机やお椅子は用ひない事ときめてなりましたが、子供達の工夫力のすばらしさと、その愉快さうな喜びに負けて、此頃はまあ、と大目にみてなります。その點、箱積木なる一邊三〇糧の立方體の積木、一邊、六〇糧と、三〇糧の長方形のものその他三角、同じ位の板等が有ますと子供達標準の實物大のものをつくる事が出來ますので、とてもよく、椅子等用ひなくてもよろしいでせう。子供達は體と同じ位の大きいものを、えんさくと運び、防空壕だの、戦車だの、汽車だのと製作してゐます。出來上つたものは、自分達が樂に實用的に用

ひる事が出来るので、もう夢中で遊んでゐます。其處には工夫の力をみ、又體力の發揮、練成をみる事が出来ます。いはゆる建設性の保育を多分にしうるゆゑ、何よりの遊びと考へます。年長組



はかうして遊びますが年少組には少し危げなので、これは先生が指導して遊んでみます。先づ(一)、箱積木で鐵橋をつくりその上を汽車になつて渡る。(二)、箱飛びをする。積木を倒さぬ様に飛び越すのであります。(三)、長方形の積木を立て、平均整のかはりにして渡る。等々これらは、ほんの一、二の例ですが工夫して種々面白く遊べると思ひます。個人／＼やつてもよく、その人の體力の發達程度をよく知る事も出来ますし、團體的競走遊戲にしてもよいと思ひます。

かごまり入 紅白の毬を網又は籠に入れる遊びです。その網なり籠の高さは子供の背丈の二倍位凡そ床より二米のものがよろしいでせう。

その道具のない時はその長さの竹の棒に、有合せの籠(果物の籠でも何でもよろしい。口の所をピンと張れば布でよろしい)をとりつけたのでよろしいのです。する時は先生がその棒を持つてゐれば別にとりそろへる必要なく有合せでちよつと遊ぶ事が出来ます。澤山毬を入れた方が勝になります。入れた数は皆で聲をそろへて數へませう。

毬を入れる時、要領のわるい子供は、その體の構へも悪く、自

然と投力も鈍くなりますのでそのまゝにしておかず、先生は、その方法を手を取つて教へませう。

これと似た遊びで、何か目標にぶつける事もやつてみませう。年長組には狭面積のもの、高い所に、一つの小さいものを置き、それにあてる。年少組では、面積の廣いもの、積木とか箱の様なもの。あたつた時に、其處に何か變化をつけておくと一入興味をおこすことでせう。

かさなり鬼 二重圓を作ります。鬼の人は外、にをり、つかまへ始めましたら、鬼でない人は何處でも、二人重なるわけです。ですから立ちふさがります。その時、一時三人重なるわけです。ですからその一番後の人は大急ぎで逃げねばなりません。さうして前へ前へと入つてゆきますから後の人はよく氣をつけてゐないと鬼につかまへられてしまひます。途中つかまへられたら、反對に追ひかけて行くのです。大人でも面白い遊びです。やつてみませう。

なわとび競走 なわとびもやつと上手に飛べる様になりましたから、競走してみませう。距離を走る競走と、耐久の競走とあります。年少組では無理ですが、年長組ではよく出来るでせう。又これをリズムにあわせて飛ぶのも愉快なものです。始め出来なかつた人も、綱を與へると一生懸命して自然とどとべる様になるものです。

うしろむき鬼 鬼を一人きめます。鬼は皆に背中をむけて立つてゐます。少し離れた所に出発點をおき、鬼が後をむいてゐる間、鬼にみつからぬ様に早く鬼の所にゆくのが勝です。しかし鬼は、時をみはからつて屢々後を振返つて歩いてゐる人をみつつけるの

です。みつげられた人は又元の出發點にもどります。五回出發點にもどつた人は今度は鬼になります。鬼の側までこられた人は鬼の背中をぼんとたゞいてしらせませう。と鬼はもう一度鬼にならねばなりません。お廊下等で遊ぶ、靜かなよい遊びの一つであります。

おとぎばなし遊び 桃太郎、金太郎、花嫁爺、猿蟹合戦、浦島太郎、こぶとり爺さん等々お話を子供の演出で劇をして遊ぶのです。臺詞等は子供達に考へさせてみませう。指導を考へなくとも、自分達ではよくかういふ遊びをしてゐるものです。手技の時に、かんむり等を作つてみると一人で子供の口から臺詞が飛出し、動作がついて來るのです。種々道具も作り、出來たら、そこで先生がその子供達の臺詞を生かして、追加へなし、音楽、お歌を入れると、すばらしいものが出來上ります。皆さんをおよびして、小さい劇の會が開かれるでせう。やはりこれは年長組の遊びでないと年少組にはむづかしいと思ひます。

遊 戲

古 澤 靜 子

遊戲の指導にあたつては、大體唱歌をうたつた後に、動作をさせるものでありますから、はじめの唱ひ方が正しく指導されておなければいけないと思ひます。

歌詞の意味を理解し、歌詞のもつ情景、趣きを想起させ得る様にと取扱ふことも、勿論であります。そのみでなく、私共自身、曲を解剖し、どんなリズムが、どんな主題のもとに、どんな形成

で變化發展してゐるかをよく眺め、理解したいと思ひます。そして指導の際にその曲の正しいきざみを會得させる事に依つて、動作への關聯が比較的容易に又合理化され、活々とした歌聲や動作が生れてくるものでありませう。

マママキ 繪本唱歌冬の巻所載
隊形。二人向き合ふ。

一 節

「鬼は外」二人向き合つて一生は鬼を外へ追ひ出す様に、掌を外側にむけ臂を屈伸しながら、二生を追つて三步前進する。二生は拍手をしながら一生に追はれて三步後退する。

「福は内」今と反對に二生が鬼を追ひ出す様に掌を外側にむけ、兩臂を屈伸しつゝ、一生を追つて三步前進し、一生は反對に拍手をしながら追はれて後退する。

「パラッくくく」豆の音 各自左手を内側にまく様に曲げて豆の入物にし、右手でその豆を撒きながら（一呼間に一回づつ）自分の廻りを右に一まわりする。右手はよく伸ばして、遠くの方へパツパツと撒く。

「鬼はこつそり逃げてゆく」 「鬼はこつそり」で向き合つたまま、人指ゆびを出して、左手右手と順々に頭につけて鬼の角を出し、「逃げてゆく」の時に角を出したまゝ、駈足で二人の位置を交換する。おくれなれない様に、すみやかに行ふ。

二 節

「鬼は外福は内」 「パラッくくく」豆の音」まで一節と同じ。